

2019 年度  
環境経営レポート  
(2019 年 11 月～2020 年 10 月)

**作成：令和 2 年 12 月 8 日**

株式会社 谷田部銘板製作所

# 株式会社 谷田部銘板製作所 環境経営方針

## 1. 企業理念

(株)谷田部銘板製作所は、社会の一員として、環境・安全・健康の確保が経営の基盤であることを認識し、「持続可能な製造」の原則のもとに地球環境等に調和した製品を提供し、社会の発展に貢献します。

## 2. 環境方針

(株)谷田部銘板製作所は、企業理念の実現に向けた事業活動を展開し、社会の持続的発展を可能とする健全な環境を次世代に引き継ぐため「ますます深刻化する地球温暖化への対応や、我が国のエネルギー供給体制の現状」を最重要課題と認識し、資源、エネルギーの節約と環境汚染防止に努めます。

### (1) 二酸化炭素排出量の削減

- ① 電灯照明と機械設備の電力の適正使用を通じ、節電に努めます。
- ② 室温設定温度の適正化(冷房28度、暖房20度)を実施します。
- ③ 配送ルート効率化とエコドライブによりガソリン使用量削減に努めます。

### (2) 廃棄物排出量の削減

- ① 在庫管理の徹底と不良品の削減により廃棄物削減に努めます。
- ② コピー用紙など事業系廃棄物の使用量削減に努めます。
- ③ 発送時の簡易包装の徹底と段ボールの再利用に努めます。
- ④ リサイクル可能な廃棄物(金属屑)量の把握を実施します。

### (3) 水使用量の削減

- ① 節水コマの導入や蛇口の緩みチェックを通じ節水に努めます。
- ② 節水の啓蒙活動と社員間での相互チェックを実施します。

### (4) 環境教育の実施

- ① 環境方針の継続的実施のために、全社員に対する環境教育を実施します。
- ② 環境保全に関する新たな知識習得のために外部講習会に参加します。
- ③ 消耗品などはエコ商品を購入するなどグリーン調達を推進します。

### (5) 化学物質の管理を徹底し、使用状況、在庫の管理と削減に努めます。

### (6) 環境関連法規、条例及びその他の規制を遵守します。

これらについて、環境目標・環境活動計画を定め、定期的見直しを行い継続的に改善に努め、企業責任を果たします。

平成 23 年 5 月 1 日

株式会社 谷田部銘板製作所  
代表取締役 谷田部 剛

## 1. 会社概要

### (1) 対象組織

事業者名:株式会社 谷田部銘板製作所  
所在地:〒174-0052 東京都板橋区蓮沼町74-2  
会社設立:1941 年  
資本金:1,000万円  
代表取締役:谷田部 剛  
環境管理責任者:箕崎 徹  
連絡先: Tel:03-5916-3561 Fax:03-5916-3555

### (2) 事業内容

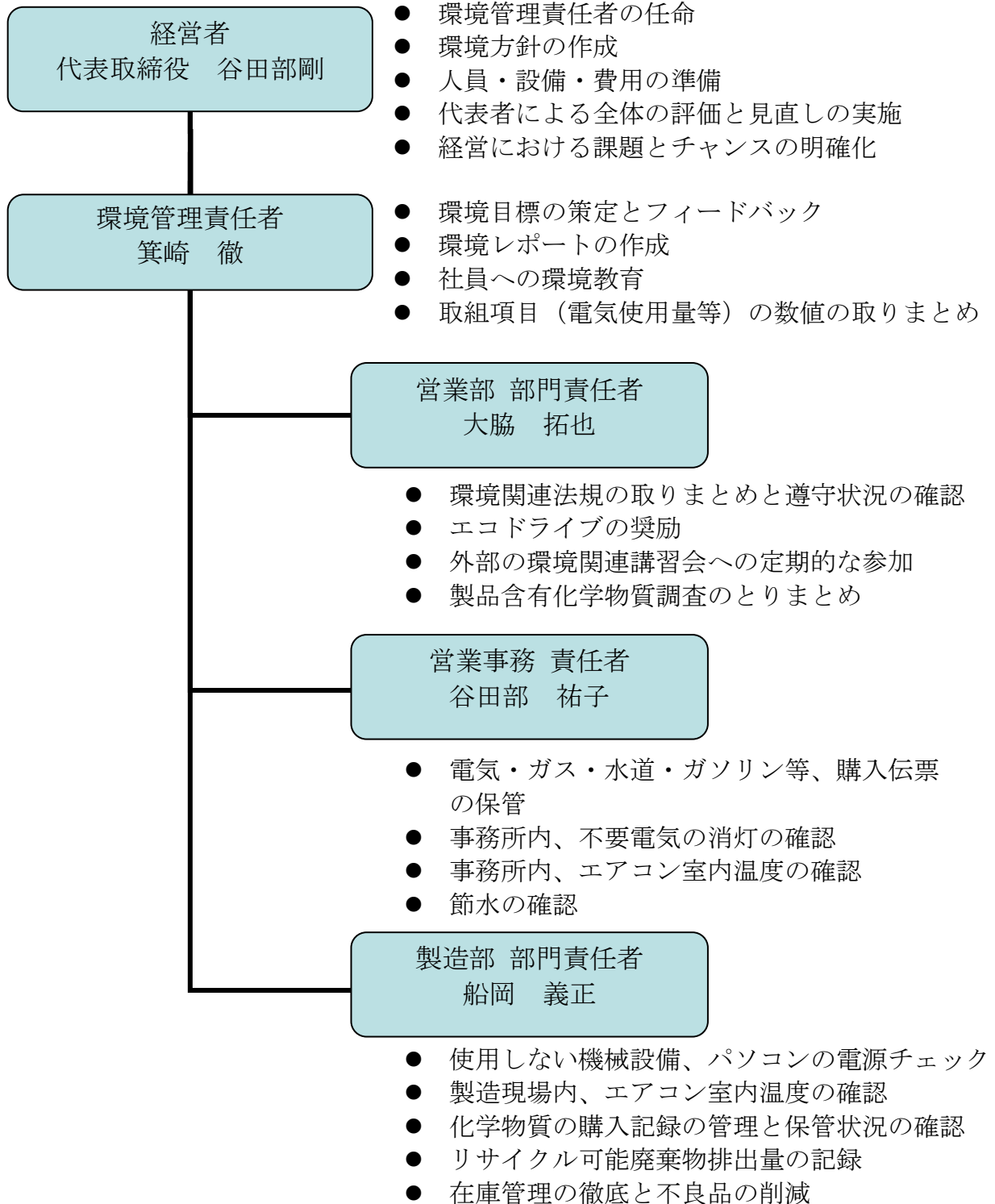
銘板・ネームプレートの製造・販売

### (3) 事業規模

- ・床面積:202 m<sup>2</sup>
- ・従業員16 人
- ・売上164百万円(2019年度)
- ・主な機械設備
  - 平圧式シール印刷機 恩田製作所 1 台
  - 25t プレス アマダプレステック 1 台
  - カラーレーザープリンター ゼロックス 2 台
  - インクジェットプリンター エプソン 1 台
  - UV インクジェットプリンター ミマキエンジニアリング 1 台
  - ラミネーター 日本GBC 1 台
  - カッティングプロッタ ミマキエンジニアリング 3 台

## 2. 実施体制

### 株式会社 谷田部銘板製作所 エコアクション 21 実施体制



(2019年6月1日現在)

### 3. 対象範囲等

#### (1) 対象範囲

株式会社谷田部銘板製作所のすべての事業活動

#### (2) レポートの対象期間及び発行日

対象期間：令和1(2019)年11月1日～令和2(2020)年10月31日の1年間

・エコアクション21の活動開始年月日：平成23(2011)年5月1日

・基準年度は、平成28(2016)年度：2016年11月1日～2017年10月31日

環境活動レポート発行日：令和2(2020)年12月8日

### 4. 環境目標

#### (1) 二酸化炭素排出量の削減

電気使用量とガソリン使用量を環境目標に掲げた。取組は基準年度平成28年度【2016年度(2016年11月1日～2017年10月31日)】との年間の使用量の比較である。

削減の目標は、基準年から毎年1%を削減する。中期目標は3年後3%削減することとした。使用量・排出量については売上(=仕事量)の増減の影響が大きいので、基準年との比較については、前回のレポートより原単位を使用している。具体的には売上 百万円単位の使用量・排出量の比較とする。二酸化炭素排出量の削減値は、各年度の電気使用量とガソリン使用量の原単位から算定した。

#### (2) 廃棄物排出量の削減

廃棄物の排出量は、多くが事務用の紙ごみである。これらは事業系一般廃棄物として処理しており、これらは二酸化炭素排出量と同様に削減目標に掲げた。

アルミニウム等の金属廃棄物は、少量で材料卸業者が有価物として回収しており、排出量は、平成25年度までに排出量の実態が明らかになった。今後は、作業方法の改善による不良品の削減と設計段階による材料取りの改善による金属材料の削減に努力していく。

二酸化炭素排出量同様、廃棄物の排出量も売上(=仕事量)の増減の影響が大きいので、基準年との比較については、前回のレポートより原単位を使用している。具体的には売上 百万円単位の排出量の比較とする。

#### (3) 水使用量の削減

水使用量は、二酸化炭素排出量と同様な削減目標に掲げた。節水コマの設置や日常の管理の徹底を目標とした。水使用量は従業員の人数の影響が大きいので、従業員一人当たりの使用量の比較とする。

#### (4) 環境教育の実施

従来から行ってきた研修会への参加等に加え、EA21の趣旨に沿った環境教育を展開していく。また、消耗品などはエコ商品を購入するなどグリーン調達の推進も環境教育の一環とする。

#### (5) その他の環境目標

##### ① 化学物質の管理

使用量は少ないが、化学物質の管理を徹底し、使用状況、在庫の管理と削減に努める。

##### ② 化学物質の情報提供

ユーザーから、使用金属材料の有害成分の照会が多く、RoSH・REACH指令に基づく情報を積極的に公開していく。(平成26年5月の環境活動レポートから追加した。)

##### ③ 環境関連法規、条例及びその他の規制内容等を定期的に点検し、遵守する。

【環境目標(数値目標のあるもの)】

＜総量値＞

No	数値項目	取組項目	基準年 2016年度	2017年度 目標	2018年度 目標	2019年度 中期目標
1	二酸化炭素排出量	電気使用量の削減(kWh/年)	28,383	28,099	27,815	27,532
		ガソリン使用量の削減(L/年)	739	732	724	717
		※注1 計 kg-CO2/年	14,982	14,832	14,682	14,532
2	一般廃棄物	一般廃棄物排出量の削減(t/年)	2.5	2.48	2.45	2.43
3	金属くず(有価物)	金属廃棄物排出量の削減(t/年)	1.4	1.39	1.37	1.36
4	水使用量	節水(m <sup>3</sup> /年)	147	146	144	143

注: 排出係数: 2017年度基準 0.462kg-CO2/kwhにて算出。

＜原単位(百万円あたり、従業員一人あたり)＞

No	数値項目	取組項目	基準年 2016年度	2017年度 目標	2018年度 目標	2019年度 中期目標
1	二酸化炭素排出量	電気使用量の削減(kWh/年)	184.3	182.5	180.6	178.8
		ガソリン使用量の削減(L/年)	4.8	4.75	4.7	4.65
		※注1 計 kg-CO2/年	97.3	96.3	95.4	94.4
2	一般廃棄物	廃棄物排出量の削減(t/年)	0.016	0.0158	0.0157	0.0155
3	金属くず(有価物)	金属廃棄物排出量の削減(t/年)	0.01	0.009	0.0089	0.0088
4	水使用量	節水(m <sup>3</sup> /年)	10.5	10.4	10.3	10.2

注: No1 No2 No3 は総量値を 2017年度売上 154(百万円)で割り、百万円単位での原単位にて算出。

注: No4 は総量値を 2017年度従業員数 14人で割り、一人当たりの原単位にて算出。

※注1 都市ガスを含む総量である。

5. 環境活動計画と取組結果 (令和1年11月1日～令和2年10月31日の年間評価)

【達成実績(数値目標のあるもの)】

＜総量値＞

No	数値項目	取組項目	基準年 2016年度	2019年度 目標	2019年度 実績	評価
1	二酸化炭素排出量	電気使用量の削減(kWh/年)	28,383	27,532	31,154	×
		ガソリン使用量の削減(L/年)	739	717	630	◎
		※注1 計 kg-CO2/年	14,982	14,532	16,040	×
2	一般廃棄物	一般廃棄物排出量の削減(t/年)	2.5	2.43	2.57	×
3	金属くず(有価物)	金属廃棄物排出量の削減(t/年)	1.4	1.36	1.66	×
4	水使用量	節水(m <sup>3</sup> /年)	147	143	155	×

注: 評価 《◎: 目標を達成 ○: 基準実績は達成したが目標は未達成 ×: 目標未達成》

<原単位(百万円あたり、従業員一人あたり)>

No	数値項目	取組項目	基準年 2016年度	2019年度 目標	2019年度 実績	評価
1	二酸化炭素排出量	電気使用量の削減(kWh/年)	184.3	178.8	189.9	×
		ガソリン使用量の削減(L/年)	4.8	4.65	3.8	◎
		※注1 計 kg-CO2/年	97.3	94.4	97.8	×
2	一般廃棄物	一般廃棄物排出量の削減(t/年)	0.016	0.0155	0.0156	△
3	金属くず(有価物)	金属廃棄物排出量の削減(t/年)	0.01	0.0088	0.0101	×
4	水使用量	節水(m <sup>3</sup> /年)	10.5	10.2	9.68	◎

【取組結果と評価】

No	環境目標	取組項目	具体的事項	業務担当	取組経過	評価
1	二酸化炭素排出量削減	電気使用量の削減	不要な電気の消灯	全 員	大震災後の不要な電気を消灯する習慣は続いている。	◎
			使用しない機械設備とパソコンの電源オフ	全 員	大震災後の使用しない機械設備とパソコンの電源を切る習慣は続いている。	○
			エアコン室温の遵守 冷房25度、暖房20度	全 員	ある程度浸透した。さらに努力が必要である。	○
		ガソリン使用量の削減	配送ルートの効率化	営業担当	なるべく最短距離になるように努めた。宅配便を増加した。	◎
			急発進・急停車の回避	営業担当	エコドライブを実施できた。	◎
			車両の定期点検	営業担当	ディーラーの協力があり実施している。	◎
2	廃棄物排出量削減	廃棄物排出量の削減	コピー用紙裏紙使用の徹底	営業担当	裏紙使用はかなり浸透している。	◎
			簡易包装と段ボールの再利用	営業担当	簡易包装と段ボールの再利用は実施している。	◎
			リサイクル可能廃棄物排出量の記録	製造担当	2019年度も引き続き記録を取っている。	◎
			リサイクル可能廃棄物(金属屑)排出量の削減	製造担当 営業担当	・不良品を削減する。 ・材料取りの改善による金属材料を削減する。	◎
3	水使用量の削減	節 水	節水コマの設置	環境管理 責任者	一部実施した。	○
			蛇口の緩みチェック	環境管理 責任者	月1回、定期的にチェックしている	○
4	環境教育の実施	社員環境教育の実施	月一回朝礼にて環境教育を実施	環境管理 責任者	EA21の実施についての研修会、省エネルギー説明会を実施する。	○
		外部講習会への参加	継続的に参加している	営業担当	参加した。	◎
		消耗品等、エコ商品の購入に努める		事務担当	エコ商品の購入を実施した。	◎
5	その他の環境目標 (平成26年5月の環境活動レポートから追加した。)	化学物質の管理	使用量・保管の管理	製造担当	2018年度の年間のデータを収集できた。	◎
		化学物質の情報提供	RoHS・REACH指令に基づく情報を提供	営業担当	依頼された情報は、すべて情報開示ができた。	◎
		環境関連法規の点検	関係法律・条例の適合状況の点検	環境管理 責任者	問題なし	◎

注：評価は短期目標と2016年度実績値との比較(◎：達成 ○：まあ達成できた ×：達成できなかった)

## 【取組結果の評価と次年度以降の取組活動】

### (1) 二酸化炭素排出量の削減

二酸化炭素排出量の個別の総量値を見ていくと、電気使用量は増え、ガソリン使用量は前年を下回っている。総量値の目標値で見ても目標は未達である。原単位での比較で見ると、ガソリンの使用量は目標をクリアしている。コロナ禍の影響で売上は10%ほど落ちたが、注文件数は逆に増え、時間のかかる仕事も増え、機械の稼働時間の増加と残業時間の増加につながったと考えられる。ガソリン使用量は外出自粛のため明らかに減少傾向にある。今後も、不要な電気の消灯をさらに厳密に管理するとともに、引き続き宅配便のさらなる利用と、エコドライブを継続していく。

### (2) 廃棄物排出量の削減

廃棄物の排出量の総量値は、増加してしまった。前年同様、売上は落ちたものの、注文件数は引き続き増加しており、検査シートなどの書類が増加したことが廃棄物の増加につながってしまった。原単位で見ると昨年を若干上回っているが、その要因は売上の減少が要因である。引き続き、裏紙使用や不良品の削減を進めるべきである。

アルミニウム等(有価物)排出量の絶対値は大幅に減少した。この減少は、金属製品の受注量が減少した結果である。今後も引き続き、効率の良い材料取りや不良品の削減努力を続け、可能な限り削減出来るよう努める。

### (3) 水使用量の削減

水使用量は減少した。全社員の節水の効果が出ている。

### (4) 環境教育の実施

月1回の環境教育はできなかったが、EA21の取組について研修ができた。また、従来から行ってきた定例会への参加等は達成できた。

また、消耗品(主に文具類)はすべてエコ商品を購入していきたい。

### (5) その他の環境目標

- ・化学物質の使用量は非常に少量であるが、種類・使用量の把握と管理徹底を行っていく。
- ・顧客からのRoSH・REACH指令に基づく情報の照会は積極的に提供を対応していく。実績として、すべての含有物質調査に対し回答し、ほとんどの案件は期限内に回答することが出来た。
- ・環境関連法規、条例及びその他の規制内容等について不適合の状況はない。今後、継続的に点検し、遵守する。



## 6. 適用される法令と遵守状況等

### 【適用される法令】

法律・条例名	適用項目	遵守状況
騒音規制法	特定施設の届出、規制基準の遵守	2003年設置届済
振動規制法	特定施設の届出、規制基準の遵守	2003年設置届済
廃棄物処理法	事業系一般廃棄物の処理	適正処理
PCB特別措置法	PCB廃棄物の廃棄（30kvaトランス）	2011年8月処分完了
東京都環境確保条例	工場認可申請、規制基準の遵守	2003年工場認可、規制基準遵守、氏名等変更済
フロン排出抑制法	フロン使用機器の定期点検	3か月毎の簡易点検を実施

### 【遵守状況等】

環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局より違反等の指摘又は環境に関する苦情は、過去3年以上ありません。

## 7. 代表者による全体の見直し

・二酸化炭素排出量は、基準年（2016年度）に比べ、増加してしまっている。個別の数値を見ていくと、電気使用量は増加し、ガソリン使用量は減少している。電気使用量が増えた要因は、コロナ禍で全体の売上が減少している中でも、注文件数は引き続き増えており、かつ、時間がかかる仕事が増え、機械の稼働時間・残業時間が増えているからと考えられる。ガソリン使用量は外出自粛の影響で明らかに減少傾向にある。今後も、不要な電気の消灯や、使わない機械設備の電源を切る、エコドライブを継続するなどして、削減できるよう努める必要がある。

・廃棄物排出量は、基準年を上回ってしまった。前年に引き続き、コピー用紙の裏紙使用を徹底しているが、注文ごとに必要な帳票が増えていることが要因と考えられる。原単位でも増加しているが、この増加は全体売上の減少に起因する。今後も不良の削減と裏紙使用の徹底等実施する。

アルミニウム等（有価物）排出量は大きく減少した。その理由は、金属銘板の受注減が考えられる。今後はアフターコロナで受注も回復すると見込まれるので、今後も、「不良品の削減」や「材料取りの改善」による金属材料の削減努力を実施する。

・化学物質の使用量は少量であるが継続して、管理の徹底と削減の努力を行う。文具類のエコ商品の購入は継続して100%を維持する。

・顧客からのRoSH・REACH指令に基づく情報の照会は継続し、積極的に提供を対応し、提供実績を公表していく。現状、ほとんどの含有化学物質調査に対し、期限内に回答が出来ているので、今後も、化学物質資料の管理を徹底し、迅速に回答できる体制を続けていく。

※次回の環境経営レポートは、令和3年12月頃作成予定。